

令和7年度 ぎふ木遊館協議会 (議事録：要旨)

1 開催日時及び場所

令和7年9月1日(月) 16時00分～17時30分
ぎふ木遊館 「木工室」

2 出席委員

伊藤栄一委員、杉山祐子委員、中島由紀子委員、前野健委員

3 ぎふ木遊館

館長、総務企画課長、企画運営係長、企画運営係技師

4 概要

- ・あいさつ
- ・意見交換

5 主な意見【意見聴取】

5. 1 5年間の成果

- ・「ぎふ木育」の全県展開により、サテライト施設5施設の整備が進められていることが一番の成果である。
- ・ぎふ木遊館が良い施設でないとサテライト施設をつくろうとしない。ぎふ木遊館が一番のモデルであり、良さがあるから地域でつくられる。

5. 2 ぎふ木遊館サテライト施設

(1) ぎふ木遊館の役割

- ・各サテライト施設と連携しながら「ぎふ木遊館の方針」が受け継がれているか見届ける必要がある。

(2) 地域性

- ・ぎふ木遊館の本質的な役割を継承しつつ、地域のオリジナリティがあるべきである。また、木を使う産業に結び付ける方が地域のニーズに合う。

(3) 保育関係者との連携

- ・サテライト施設建設にあたり、保育園の園長に安全管理等の事前確認をお願いしたい。保育園とも連携をとることにより地域とのつながりもできる。

(4) 「ぎふ木育」に係る研修

- ・運営スタッフと現場スタッフの間に、「ぎふ木育」に係る意識の差が生じる場合がある。現場スタッフだけでなく、スタッフ全体が「ぎふ木育」の研修を受ける必要がある。

5. 3 木育プログラム

(1) 新規メニュー

- ・定番のメニューが育つのは良いことであるが、新鮮味はなくなる。活動場所を求めている人はいるので、新しいチャレンジの場としてぎふ木遊館を利用できると良い。
- ・ぎふ木遊館スタッフのさとやまさん同士で研修会を行っている。さとやまさんが実施しても良い。
- ・ぎふ木遊館は子ども対象の木育プログラムは充実している。木や森に関心の高い人を対象とした木育プログラムを実施しても良い。

(2) 成果評価

- ・アンケートをどう分析するか。「木に親しみを感じた」、「暮らしの中で木を使いたくなった」については、参加した前後の意識変化だと思われる。
- ・満足度だけではない。認知度がどうかかわるかを年次変化で調べるなど、評価の仕方を工夫する必要がある。

5. 4 大学等との連携

(1) 外国人留学生

- ・外国人との交流で日本の良さを知ってもらう時に木は良い。大学と連携し、留学生にも木に触れてもらいたい。

(2) 看護・リハビリ

- ・看護やリハビリを学ぶ学生・先生にもぎふ木遊館を知っていただきたい。

5. 5 森林とのつながり

- ・関市には百年公園があり、ぎふ木遊館からこんなに近いところに森林がある。森林に行くのであれば、岐阜市から距離も近く一般の人が森林の整備等を行うにもちょうど良い場所である。

5. 6 防災・防犯対策

- ・来館者への安心材料になるので、防災、防犯、避難訓練を行っていることを来館者へアピールすると良い。

5. 7 駐車場を活用したイベント

- ・木工作家や清流福祉エリア内の周辺施設と連携し、駐車場を活用したイベントを開催してはどうか。一般の方が木を手にとって見る機会にもつながる。

5. 8 ぎふ木遊館が大切にすべきこと

- ・「ぎふ木遊館」でないと出来ないことが大事である。
- ・「親子で安心して『ぎふ木育』を体験できること」、「親子で楽しめること」が大切であり、開館から10年目を目指して、しっかりと地に足をつけて取り組まなければならない。